

週日の説教

金 大烈 神父 2009年12月23日(水)

《神のみ旨に従う》

おはようございます。

ある10歳くらいの少年が、銀行に現れました。銀行の窓口に行って、受付をしている一人の女性の前に立ち、「おばさん、わたしに1000円を貸してくださいませんか？」と大きな声で頼みました。自分の順番を待っている人々は、その少年の言ったことに驚いて、彼を見つめます。その少年の口調はとても強く、表情も真面目であったので、「いたずらではないのだな」と皆は思いました。ある一人の男性が少年に近付いて、「なぜ1000円が必要なの？」と尋ねました。「見てください。私の靴が古くてもう履けなくなってしまったので、新しい靴がほしいのです。私は必ずお金をお返します。1000円を貸して、わたしを助けてください。」この話を聞いたその男性は気の毒に思い、少年を連れて百貨店に出掛けます。そして、必要な靴を探しました。少年の身につけている洋服もだいぶくたびれていたもので、男性はそれも買ってあげようとしたのですが、少年は「いいえ、それは出来ません。この靴ぐらいのお金なら私にも返せるのですが、それ以上は私には返すことができません。おじさんのお気持ちは嬉しいですが、これで十分です。この新しい靴だけ頂きます。」と答えて、親切な男性のことをいろいろと尋ねてから、別れたそうです。

これはひとつの逸話なのですが、本当の話かどうかは確認できませんでした。とにかく、この話で私が感じたことは、この世の中で私達が幸せになるためには、美しく自分を着飾る必要性とか、そんなに大きい力とか、大きな富は必要ではない、ということです。しかし、一つを手に入れば、やはり二つ目も手に入りたい。そして三つになる、そして数え切れないぐらいに、目標が次々と目に入ってしまうのです。

私達は神様のくださった富を見ても、それは満ちあふれるほどの富なのです。しかし、いつも何か自分の手にはない、と感じてしまう。そういう人々が沢山いるのが、今の世の姿なのだと思います。ですから、信仰を持っている私達から「私の持っているこれは、本当に自分の救いのために必要なものか」と自身に問う必要があります。自分が保持しているもので、他の人が救われるものがないか。それを考えてみると、反省すべき事が結構あるのではないかと思います。とにかく歴史を振り返ってみても、適当な富や力など、自分にとって必要な分を得るだけで、私達は豊かに生きることができます。問題は欲心です。私達の内にある欲が自分を不安に陥らせ、満足できないようにしてしまう。いつも嫌な気持ちでこの世を生きるようにしているのではないのでしょうか。

クリスマスをはかえている今、このような面でも考えて頂ければ良いのではないかと思います。私も結構反省します。持っているものがとにかく多すぎるし、その欲からなんとか解放されたいという気持ちは強いのですが、なかなか出来ないのです。難しいことです。ですから、このような面においても神様に「悟らせてください」と祈ることも必要ではないかと思います。

さあ、今日の福音(ルカ 1・57~66)では洗礼者ヨハネの両親の物語が紹介されています。父親の名はザカリア、その奥さんはエリザベト。ザカリアは「あなたの妻は身ごもって男の子を産むことに

なる」と天使から言われた時に、拒みました。「とんでもない。自分の妻は年をとってしまっていて、そのようなことはないでしょう」とはっきりと言いました。そして口が聞けなくなったのです。結局、子供は産まれたのでしたね。親類が集まって「この子どもの名前をどのようにつけたらよいか」と言ったら、奥さんのエリザベトは『名はヨハネとしなければなりません』と言いました。『あなたの親類には、そういう名の付いた人はだれもいない』なぜヨハネという名前にこだわっているのか。この子の父親に聞いてみましょう。ザカリアは板に『この子の名はヨハネ』と書いて答えました。そのとたんにたちまち口が利けるようになったという話です。

この話を聞いて皆様はどのような感想をお持ちになったでしょうか。唯一つです。信仰は自分の望みを前に立たせるよりも、神様のみ旨が何であるかを考え、そのみ旨に従おうとすることです。まず神様のみ旨を先に立たせようとするのが信仰です。今回の物語では、ザカリアは自分の口が利けないときに、悟ったのでしょうか。「そのようなことはないでしょう」と自分が拒んだことで、このようになってしまった。神様が何かのご計画の中で私のためにして下さったのに、私は文句を言ってしまったのだ。信じなければいけなかったのに、という反省があった事でしょう。子どもの名前を親類に聞かれたとき、自分の希望する名前があったかもしれませんが、「これは神様のみ旨だから、わたしは従う」という気持でヨハネと書いたのではないのでしょうか。

皆様、ご存知のようにこの洗礼者ヨハネは悲劇的な生涯でした。神様のために首を切られることになるのです。しかし、この登場人物たちが信仰によって自分に起こった出来事を解釈していったことを私達も見習うべきではないかと思います。私達にも葛藤があります。ぶつかりがあります。私の考えと神様の考えがもし同じであったら、それは幸いです。しかし、そうではない場合が多いんでしょう。私の考えと神様のみ旨には間隔があります。もし皆様が勝つことに価値を置いていらっしゃるのであれば、神様のみ旨に優先権を与えてください。そうすれば信仰によって皆様はご自身に勝つことになるでしょう。

ありがとうございました。